

新聞記事に見る

# 徳島大学の 地域連携・ 社会貢献事業

## 徳島大と県中小企業家同友会

### 人材育成などで連携協定

徳島大と県中小企業家同友会は、地域経済の発展や人材育成などを目的に連携協定を結んだ。

同友会に加盟している県内の中小企業約420社が、徳大生をインターシップで受け入れるなどする。7月31日に徳島市内の徳大本部で締結式があり、

徳大の河村保彦学長と同会の小田大輔代表理事、島隆寛代表理事が協定書に署名した。

河村学長は「さまざまな分野で互いに協力・連携をしたい」とあいさつ。小田代表理事は「活力ある地域づくりや産業振興を進めたい」と話した。(佐藤聡美)

2023年8月3日 [徳島新聞]

徳島大の1、2年生5人が、ふるさと納税の返礼品の魅力を高める方策を探るプロジェクトを始めた。東京都内の特産品の流通現場などを調査。来年1月末までにアイデアをまとめ、返礼品の開発に取り組んでいる県の情報発信・交流拠点施設「ターンテーブル」(東京都渋谷区)や県内自治体に提案する。

郡内での調査は9月25日、28日に行い、7道県のアテナショップや百貨店を訪問した。品ぞろえを視察し、店のコンセプトや売れ筋商品などを店員から聞き取った。

ターンテーブルでは接客を体験し、森計介社長や徳島県出身のアルバイト大学生らと意見を交わした。森社長は「東京から徳島を見て、何が求められているかを意識するのが大事」と話した。

郡内では、学生は今後、県内で農水産物の生産者や加工業者へのインタビューなどをフィールドワークを重ね、ふるさと納税の寄付件数を増やす方策や新たな返礼品を考案する。

総合科学部1年細川七保斗さん(19)は「ターンテーブルのお客さんは徳島に興味を持っていた。返礼品のPRに可能性を感じた」。総合科学部2年本間千夏さん(20)は「徳島にしかない、誇れるものを探したい」と話した。

## 県内へのふるさと納税額 全国46位 返礼品の魅力向上 徳大生5人が探る

### 就業体験で自治体などに提案へ



ターンテーブルのアルバイト学生(左から2人目)らと意見を交わす徳島大の学生=東京都渋谷区のターンテーブル

総務省によると、県と県内24市町村への2022年度の寄付総額は約28億9千万円(約15万1千件)で全国46位にとまっています。

プロジェクトは地域の課題解決を目指す徳島大の「実践型インターシップ(地域型)」の一環。他に学生15人が県内4市町で別々のプロジェクトを進めている。(北野晃)

2023年11月20日 [徳島新聞]



## 起業計画 作り方学ぶ 徳大で実践塾 40人が参加



「まちごとファクトリー」の実践塾でビジネスプランを学ぶ参加者＝徳島大常三島キャンパス

**まちごとファクトリー**  
地域での起業や担い手育成を支援する「まちごとファクトリー」（徳島大、県信用保証協会、徳島新聞社主催）の実践塾が21日、徳島市の徳島大常三島キャンパスであり、オンライン参加を含め大学生や社会人

ら40人がビジネスプランに明、収支計画の要点、事業内容記載の具体例、経営計画の作成方法を詳しく講じた。アドバイザーの里見和彦さんが「ビジネスプランは、きちんと数字を入れるのが不可欠。売り上げと経費を具体的に出して損益分岐点をつかむ必要がある」と説いた。ペトナムから留学して

2023年10月22日 [徳島新聞]

## 事業化のきっかけ学ぶ 本年度初セミナーに40人



セミナーで事業化の経緯などを説明するゲストの講演者＝徳島大常三島キャンパス

**まちごとファクトリー**  
地域での起業や担い手の育成を支援する「まちごとファクトリー」（徳島大、県信用保証協会、徳島新聞社主催）の本年度最初のセミナーが24日、徳島市の徳島大常三島キャンパスで開かれ、会場とオンラインを合わせて約40人が参加した。

**協栄内科**  
を営む団体を立て上げた高橋真冬さん(28)らゲスト3人が講演した。パリスタの経験を生かし、阿南市加茂谷地区で体験型ショップを営む岡崎裕樹さん(40)は事業内容などを紹介。製薬会社から転職してクラフトビール醸造を手掛ける住友正伯さん(41)は、広島県呉市からのUターンや事業化の経緯を詳しく説明した。資金面などに関する質疑応答もあった。

2023年6月25日 [徳島新聞]

地元でのつながりを深めた」と話した。セミナーは2015年度に始まり9年目。昨年度までに38件の起業を実現している。(平尾貴宏)



**大塚シロアリ**  
「18」は「3」人とも異なる事業化のプロトタイプで興味深かった。経験と知識を得て、夢を実現したい」と意欲を語った。神山まるこ(高専1年の鈴木カヲルさん(16)は「地域に溶け込む重要性がよく分かった。在学中に

## 早期の診療再開へ BCP事例を紹介

徳大防災カフェ 本年度初会合



医療機関のBCPなどについて発表する湯浅講師＝徳島市の徳島大環境防災研究センター

**オンライン**  
徳島大環境防災研究センターの教授らと市民が防災分野などについて意見交換する「環境防災カフェ」の本年度初会合が27日、ビデオ会議システムを使ってオンラインで開かれた。県内外から約50人が参加した。センターの湯浅恭史講師が「医療機関のBCP（事業継続計画）」について説明。2018年の西日本豪雨で被災した病院が、水害に備えて2階以上に診療機能を置いていたため、

2023年4月29日 [徳島新聞]

早期の診療再開につながった事例などを紹介した。地域全体での医療を継続するため、「状況によっては自らの病院の診療を休止して、医療スタッフを他病院に回すなどの判断も求められる」と話した。「保育施設の防災と事業継続」をテーマに話した中野晋特命教授は、保育所周辺のハザードマップや、緊急地震速報などの情報活用について話した。(石崎義典)

## 美術で学ぶ災害への備え

**興近代美術館は徳島** エン展(9月16日)と大環境防災研究センター 月10日の関連イベント。と共同で、美術鑑賞を業 自然と災害の関連を大々しんていながら防災 いこに備えたいという思いがを身近に感じてもらうワ センターに持ちかけた。1ワークショップを9月30日 センター職員から防災と10月21日に徳島市の同 をテーマにした講演会を館周遊開催、自然がけた後、特別展を鑑賞。1マのつととなっている 続いて県立文化の森総合特別展「デザイン・ポー 公園周辺を散策し、観察

近代美術館と徳大

来月からワークショップ

2023年8月30日 [徳島新聞]

## 防災ラジオドラマコンテスト 太田さん(盛岡)最優秀賞

東日本大震災のその後描く

防災啓発を図る防災ラジオドラマのシナリオコンテストの最優秀賞に、東日本大震災のその後を描いた太田さんの作品が選ばれた。県と徳島大環境防災研究センター、エフエム徳島でつくる実行委員会の主催で、今年で3回目。初めて公募した作文部門では、徳島市の国府中学校防災学習倶楽部の「そなえあれば、だいじょうぶ」が最優秀賞に輝いた。



防災ラジオドラマのシナリオコンテストで最優秀賞に輝いた太田さん＝徳島市のJ.Rホテルクレメント徳島

があり、受賞者10人が出席。太田さんは「私たちが津波に対して油断をしていた。南海トラフ巨大地震への啓発の意味も込め、防災への思いを強くしてほしい」と語った。作文部門の「そなえあれば、だいじょうぶ」は、幼稚園から小学校低学年向けに防災の重要性を訴える内容となっている。今年のコンテストのテーマは「地震と津波災害」。シナリオ部門には全国から157点、県内小学生を対象にした作文部門には57点が寄せられ、脚本家の北阪真さんや日本アカデミー賞で最優秀脚本賞を受賞した「好き出身の向井康介」さんが審査した。最優秀作品は「エフエム徳島がラジオドラマ化し、来年3月15日に放送する。(石崎義典)

2023年11月19日 [徳島新聞]